

だんだん便り

第30号

2020年4月 10日

一般社団法人大んだん会

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

- ・法人本部 **0551-45-9566**
- ・地域看護センターあんあん **0551-30-7505**
- ・定期巡回てくてく24 **0551-30-7787**
- ・オレンジサロンわいわい白州・長坂 **0551-45-9566**
- ・グループホームわいわい白州 **0551-30-7566**

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023

- ・わがままハウス山吹 **0551-45-6323**

408-0044 北杜市小淵沢町 10123-2



サクランボ・佐藤錦の花

初夏の味覚で夏の季語ですが、
4月に花をつけ、6月～7月に赤い実をつけ、
結構高価な果物です。

写真・文 たろべえ（大泉町）

グループホームわいわい白州

「わいわい白州」三年目の春を迎えて、尾白と摩利支天の利用者さんでひな祭りを祝いました。



2019年度より、尾白・摩利支天、両ユニット合同でのレクリエーションチームが発足しました。（リーダー湯舟、鈴木・大柴・清水・山口）紙芝居・夏祭り・クリスマスコンサート、ひな祭りを計画しました。地域の方々、だんだん会に関わられている多くの方のご協力を賜り、利用者様と共に楽しませて頂きました。心より感謝申し上げます。

以前読んだ本の、犬養道子さんの言葉に「食物は本来、聖なるものであり、それを分かち合うことは、いのちの兄弟となること」というのがありました。普段は別の生活を送っていますが、こういう行事を通して、さらにふれあい、いのちの響きを感じられますように！

（摩利支天：清水恵子）

オレンジサロンわいわい白州・長坂・こぶち



桜の花、開花しましたが・・・・

南北に長い地形の北杜市、桜の開花は、標高の違いで開花の状況が変わるんですが、今、南の方から見頃を迎えてます。

でも今年はちょっと違います。

春を素直に感じられない、目に映る桜の花から「踊るようなときめき」を感じられていないのは私だけでしょうか。

オレンジサロンは、3月より開催を自粛しております。

いつもなら「花見」の企画をするのですが・・・・桜も寂しそうです。



「ともにつくる認知症カフェ開設応援助成」を受けて

平成29年4月末から開設しました「オレンジサロンわいわい白州・長坂」、3年が経過しました。そしてこれから、3年間の実績と経験を生かして前進したいと思います。
ここで3年間を振り返りたいと思います。

3年間の振り返り

2017年度の参加者は、2会場、隔週開催で、年間606人（うち家族参加含む）

2018年度は、開催箇所が一か所増えて、年間で808人（家族含む）

2019年度は、年度末の開催自粛がありましたが、777人の参加がありました。

サロン活動からの学び

サロン活動から多くのことを学びました。

- 1) 参加された方は、「会が待ち遠しい」「もう帰るの・・」、笑いの絶えない場所で、心の安定を図ることができたのではないかと思います。
- 2) 診断から介護サービスの利用までの間（空白期間）、介護サービス利用への抵抗、あるいはさらに交流を求めて介護サービスとの併用と、利用の目的は様々でしたが「（多くの参加者・家族に）求められていること」を実感しました。
- 3) また、介護サービスとサロンに併用して参加されている方の中には、スケジュールの混乱が生じて、生活のリズムが一定しないために参加が難しい場合もありました。
- 4) サロンの参加で、介護サービスを利用しなくても在宅での生活ができている方もいます。
- 5) 介護家族の方にとって「息抜きの場」になっている。何より、楽しんでいらっしゃいます。
- 6) 介護家族にとって、同じ体験をされている方との交流は、互いに支え合う効果が感じられました。
- 7) 地域特性として、集落が散在している田舎町では「送迎」が欠かせない、「カフェとして集まる場」が見つからない。このようなカフェの裾野を広げたいが場所の確保の困難課題があります。

そして今後ですが、開催会場の新規開発、当事者の方や家族、一般市民の方が自由に過ごせて、専門職との交流や学びの場として再出発をいたします。

この間、物心両面で支えてくださいました「朝日新聞社厚生文化事業団」に深く感謝申し上げます。

（中嶋登美子）

わがままハウス山吹（支援付き共生すまい）

4月！“わがままハウス山吹”が1歳になりました！ 長期、中期、短期でたくさんの方に利用していただき、大過無くこの1年を過ごしてまいりましたが、思えば様々な方に支えてもらっていました。入居者の皆様が、健康で充実した生活が送られるよう支援してくださっている個性豊かな方々をご紹介いたします。



差ヶ久保 三希さん(理学療法士)

高根町在住。“山吹体操”発案者、週1回“山吹”的リビングで入居者の皆さんと笑い満載で行っています。これが結構ハードでむずかしい！

元バスケットボール選手、マウンテンバイクをご出勤。



小澤 興志美さん(栄養士)

武川町在住。栄養士歴ウン十年のベテランです。介護支援専門員（ケアマネ）資格もお持ちで、広い視野で“食”を考え下さっています。週数回のジム通い、水泳で健康維持を心がけています。

Yご夫妻（ボランティア）

長坂町在住。ご主人は元電気関係技術者、電気器具の修理、お庭のライトアップはお手のもの。

奥様は園芸、野菜作りが趣味、手入れをしてくださっている“山吹”的お庭の花がこれから芽吹きます。「写真ははずかしいのでご容赦を・・・」との事

大原幸夫さん(工房「大原工芸」主催)

「社会の矛盾を感じて18歳で家出、放浪していろんな人に助けられて希望を持つようになった。“一生懸命生きること”が趣味。今は恩返しをしたいと思っているから何でもするよ。なんでも言って！」

“山吹”的いろんなところに大原さんのお柄あふれた手作りのものが見られます。



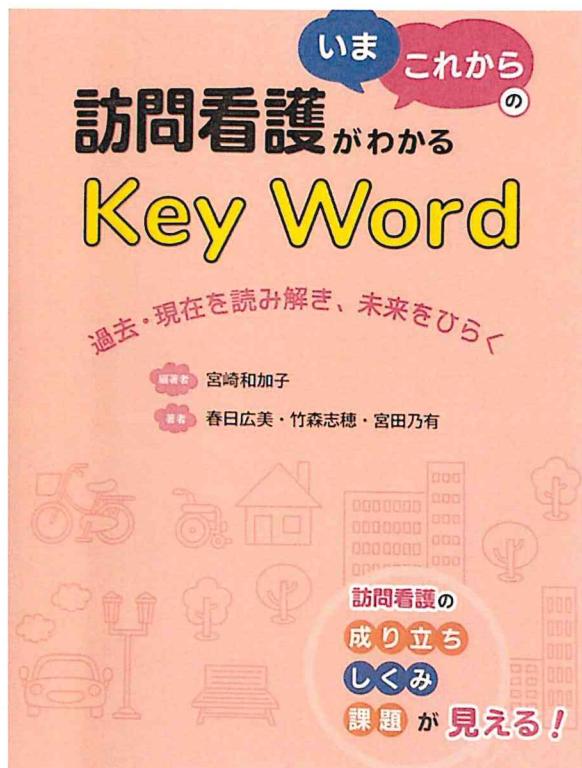
“わがままハウス山吹”はこんな素敵なおににも支えて戴きながら、歩き続けます。地域に根付き、ますます素敵で充実した『共生住まい』を目指していきます。 皆様、応援してください。（寄り添いスタッフ 石川由美子）

Information

本を出版しました!!

『訪問看護がわかる 「いま・これから」のKey Word』

～過去・現在を読み解き、未来をひらく～



編著者：宮崎和加子

著者：春日広美・竹森志穂・宮田乃有

◆第1章は、“訪問看護のいま”
30のキーワードで表現
2020の今を切り取ってまとめました。

◆第2章は、“訪問看護の歴史”
21のキーワードで。
日本の訪問看護を6期に分類し、主に
1970年代の萌芽期に焦点を合わせ
まとめました。

◆第3章は、“訪問看護のこれから”
10のキーワードで探りました。
著者たちで集り合い探って、これからを
考える素材をまとめました。

日本で訪問看護が始まってほぼ50年。記念すべき年にこの書籍を出版することができてうれしく思っています。歴史をより正確に記録に残すような本をつくるなければならぬと自覚をして計画・企画してから14年になります。途中で断念して中断していましたが、メディカ出版で出版していただくことになり、2018年から全面的に企画をし直して再出発してこのような形でまとめることができました。

～はじめにより～

後輩3人とあきらめないで向き合ってきてやっと出来上がった本です。日本の訪問看護の歴史を歩いてきた生き証人の一人として形にできてほっとしています。

新型コロナウイルスで世界中が緊張しているときの出版となってしまいました。訪問看護の現場や教育の場、これから訪問看護に携わる方、また一般市民の方にも読んでいただけるように描いたつもりです。ご一読していただけるとありFがたいです。

<宮崎和加子>

地域看護物語



ばあちゃんとふたりの孫のものがたり

地域看護センターあんあん 浅見玲子

病院で初めてお会いした福田幸子さん（72歳）。そのお顔はこわばっていました。幸子さんは、大腸がんで治療が困難な時期にきていました。

“あまり残された時間はない”ご本人には告げられていませんでしたが、最後までご自宅で過ごすかどうかは結論がでないまま、とりあえず一度ご自宅に戻ることになりました。

はじめての訪問の日

幸子さんは、看護師に「私、家で死んでも良いのかしら？ 2人の孫たちにかわいそうな思いをさせてしまうのは嫌だから、施設か病院に行こうかとも考えている」と仰いました。

「黙ってどこかに行かれてしまうほうがきっとお孫さんたちは悲しまれます。誕生の時からずっと一緒に暮らしてきたお孫さんたちだからこそ、この家で幸子さんが生き生きとお姿をしっかりと見せてあげてください。そのことがきっとこれから生きていくお孫さんたちの大切な宝ものになりますよ」とお話ししました。傍で聞いていた同居している次女の聰子さんは、在宅で最期を迎えることを決心できていました。幸子さんの真意を初めて知りました。この言葉を聞いてご自分が最後まで介護しようとこのときに決心なさいました。

それから21日間

福田家は毎日笑いに満ちていました。お孫さんたちは幸子さんをお風呂にいれてあげたり、話しかけたり、わがままを言ったり。近所のご友人たちが「幸子さん、お茶しよう」と毎日訪ねてきたり。ご縁のある方々と豊かな時間を楽しんでいらっしゃいました。苦痛の訴えはなく、家屋内の生活動作は亡くなる2日前まで自立なさっていました。初めて在宅診療所の医師が訪問診療なさったときにも「私はもう覚悟できています。先生よろしくお願ひしますね」と毅然と仰る幸子さんに先生のほうが驚いていらっしゃいました。

「ばあちゃん、もうすぐ死ぬよ」

こんなエピソードがあります。コロナ騒動で計画していたディズニーランドに行けなくなっこことで小学生の拓ちゃん（上のお孫さん）が駄々をこねていました。幸子さんは、拓ちゃんを一人自室に呼んで「拓ちゃん、おばあちゃんはもうすぐ死ぬの。おばあちゃんが死んだら49日とかまではいろいろ忙しくて家族で遊びになんか行けないんだよ。拓ちゃんがしっかりみんなのことよろしく頼むよ」そう語りかけたといいます。拓ちゃんは黙って頷き、それから率先してお母さんを手伝うようになったそうです。

孫さんが添い寝しながらあの世に

未明から昏迷状態となりましたが3人の娘さんが見守る中、下のお孫ちゃんの小学校2年生の秀ちゃんが朝起きました。眠い目をこすりながら「ばあちゃん、大丈夫？」と声をかけながら幸子さんの布団に入ろうとしました。すると幸子さんは秀ちゃんのほうに手を伸ばして招きいれ、秀ちゃんは泣きながらしばらく添い寝をしてあげていました。そして最期の一呼吸をご家族だけで見守りました。

「病人ではなく「暮らす人」

幸子さんは、在宅に戻られてからは、病人ではなく暮らす人でした。暮らしのなかにあるといろんな力が働くのでしょうか。拝見しているときの幸子さんはいつも笑っていました。

暮らしのなかで自然に人生の最後を終えた幸子さんですが、幸子さんはこれからもご家族のなかでいいきいきと生き続けていくのでしょうか。人の身体は有限ですが、その人が生きてきた軌跡は永遠です。親から子へ、そしてまたその子へ紡がれていくのです。

「拓ちゃん、秀ちゃん、ばあちゃんは、ずっと君たちをこれからも見守っていますよ。ばあちゃんは、とてもしあわせだったよ。ありがとう」幸子さんのお顔はそう語っているように感じました。

悪戦苦闘？！ <その1>

長い人生の最終盤は、『認認夫婦』

矢沢悟さん（85歳）と淑子さん（84歳）は、60年連れ添ったご夫婦です。若い時は仲が良かったのかどうかはわかりませんが、高齢期は助け合い寄り添って暮らしていらしたようです。

お二人に誰かの助けが必要だと発見したのは、矢沢さんの友人です。

家の中が散乱！ 生ゴミが干してそこら中においてあり、洗濯はしている形跡がなく、食材は期限切れ・・・。炊飯器は壊れ、薬カレンダーはハチャメチャ。淑子さんは穏やかなのですが、何を言っているのかあいまい。悟さんは茫然とみている・・・。

そうなんです！ お二人とも認知症になってしまったようなのです！

ケアマネからの依頼内容

その後、要介護認定を受け、淑子さんは要介護1になり、ケアマネがケアプランを作成し、「てくてく24」に依頼が来ました。依頼内容は4つ。

① 確実に薬を内服すること

飲んでいるかどうか全くあいまいな薬を確実に一日3回内服できるようにすること。

② 入浴をすること

入浴を拒否。どうにか入浴させてほしいと。

③ ゴミを定位置・定日時に出すこと

生ごみを日干しにして外で燃やす生活が長かったようなのですが、様々なゴミがあいまいになり散乱しているのと家の中が悪臭。その解決を！

④ 冷凍の食材の管理

冷凍食品の期限切れと冷蔵食品の再冷凍などとごちゃごちゃ。その管理の依頼。

さてさて、何からどう始めようか・・・。

一日1～2回の臨機応変の訪問支援が開始。

生活障害の方への支援のプロ

認知症その他で生活が壊れかかっている方への支援は、“てくてく24”的使命！

「任せてください！」といいたいところですが、あまりに壊れかかっていると、さて・・・？と頭をかかえます・・・。それでも職員みんなで課題に挑戦です。一つ一つ丁寧に支援させていただきました。

それまで何のサービスも利用していなかった矢沢さんに一日複数回の訪問をすることにより、詳細がわかつてきました。また顔なじみになってきたことも加わり、かなり改善することができました。

内服は確実、入浴ができ、家の中も整理整頓

薬は手渡し確認。工夫と上手なお誘いで週2回は自宅での入浴が可能に。洋服を8枚、靴下を5枚履いているというようなことはなく、気温に合わせたおしゃれに。ゴミもきちんと出せるようになったので、家の中は以前よりはきれいに心地よくなっていました。

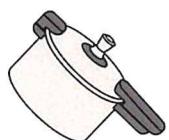
職員みんなで“頑張った甲斐があったね”と。

それでも認知症は進行…

淑子さんは、帰る私たちをいつも玄関まで笑顔で見送ってくれました。それがだんだんと距離が伸びて車まで。あるいは道路までと。

なんだかこのごろ変だなあと思っていたら、先日、5km離れたところでパトカーに保護されました。一人で歩いて行ってしまったようです。

これからどうなるのか心配です。



春爛漫のハケ岳南麓



山は白、木々にはピンクや黄色の蕾・花。
地面には、カラフルな色の花々が・・・。
二十種類のも水仙がそこら中に咲きほこります。
何ていい季節・北杜なんでしょう！

